

第8章

基幹業務の管理システム

第8章では、基幹業務の概要について、基本的な内容が理解しているかを問う問題が用意されています。企業活動を理解し、諸活動を効率よく処理するためにも基幹業務ソフトの特徴を確認しましょう。

個別論点と年次決算

第1章

会計データの新規作成

第2章

製造業における原価情報

第3章

財務構造の分析

第4章

収益構造の分析

第5章

短期利益計画と予算管理

第6章

資金管理

第7章

基幹業務の管理システム

第8章

ANSWER

解答

19. 財務会計システムに関連する管理システム

企業の事業運営における購買、生産、販売、在庫管理、会計、人事・給与計算などは、各種業務データが連鎖しています。それぞれの業務プロセスは、部門や組織を横断的に、かつ、効率よく処理しなければなりません。さらには、支店別、営業所別のデータも管理する必要があり、経営資源の活用を最適化する管理システムは不可欠のものになっています。

(1) 現金の出納業務と管理システム

現金の管理では、実際残高と帳簿残高を一致させることが大変重要です。また、他人が振り出した小切手を受け取った場合や郵便為替証書、そして配当金領収証などは、現金として扱いますので注意しましょう。

問題 8-1

日商 2級

次の文章中の空欄にもっとも適当と思われる語句を語群から選んで、(1)～(4)の解答欄に記号で記入しなさい。

設問 1

部署ごとに諸経費を支払う場合、少額の現金を手元に用意することがあります。企業全体の現金出納業務とは別に、部署ごとに小分けした現金を (1) と呼びます。(1) は、担当者に一定額を前渡して管理させ、一定期間ごとに支払額を報告させ、同額を補充する方法がとられます。従業員が外回り営業のために立て替えて支払った交通費などは、立替金請求伝票と (2) を添付して経理担当者へ請求します。経理担当者は、内容確認した上で、現金の出金とデータの入力を行います。

語群	ア	小口現金	イ	仮払金請求伝票	ウ	領収書	エ	予備費
----	---	------	---	---------	---	-----	---	-----

設問 2

従業員が出張に備えて経費を仮払いしてもらう時は、仮払に関する (3) を作成して経理担当者に請求します。経理担当者は、内容や精算日を確認して現金を払い出します。

出張から戻った従業員は、速やかに仮払金の (4) , 領収書, 残金などとともに、経理担当者へ報告し、経理担当者は内容確認するとともに費用に関するデータを入力します。

語群	ア	請求伝票	イ	精算伝票	ウ	請求書	エ	領収書
----	---	------	---	------	---	-----	---	-----

解答欄

(1)	(2)	(3)	(4)

Advice

仮払金精算伝票は、単に精算伝票、出金伝票などとも呼ばれ、企業によって名称や形式が違います。

(2) 預金の出納業務と管理システム

普通預金をはじめとして、各種の預金の特徴についてしっかり理解しましょう。また、預金の帳簿残高と銀行が発行する残高証明書とが一致しない場合、その原因を明らかにして正しい金額を確定する必要があります。

問題 8-2

日商 2級

次の文章中の空欄にもっとも適当と思われる語句を語群から選んで、(1)～(6)の解答欄に記号で記入しなさい。

設問 1

(1) は、小切手を利用する時に必ず開設しなければならない口座で、利息はつかない。一方、普通預金より高い利率で運用される (2) は、一定期間の引き出しが制限される。

また、預金残高と帳簿残高(会計データの預金出納帳)の不一致の原因は、夜間金庫への入金が記帳されていなかったり、振込入金や自動引き落としの金額が未通知のためなどである。さらには、振り出した小切手がまだ銀行に呈示されていない (3) がある場合にも帳簿残高と一致しない。

語群	ア	未渡小切手	イ	未取付小切手	ウ	当座預金	エ	定期預金
----	---	-------	---	--------	---	------	---	------

設問 2

(4) とは、振り出した小切手を相手に渡すことなく手元に保管した状態のものであり、このまま決算になった場合は、当座預金勘定を増額する修正をしなければならない。なお、夜間金庫による預け入れのような時間外預け入れによる不一致は、修正する必要がない。

会計ソフトでは、銀行の口座数が多い場合、預金の口座ごとに管理するため預金の種類ごとに (5) を設ける。なお、口座数が少ない場合は、預金口座ごとに (6) を設定すれば充分である。

語群	ア	未渡小切手	イ	未取立小切手	ウ	勘定科目	エ	補助科目
----	---	-------	---	--------	---	------	---	------

解答欄

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)

Advice

「未取付小切手」とは、仕入先などに小切手を振り出したが、相手が銀行に呈示していないため、当座預金口座からの引き落としがなされていない小切手のことです。一方、「未取立小切手」とは、当社が受取った小切手を金融機関に持ち込んだが、いまだ取立(当社の当座預金口座への入金)が行われていない場合です。当社は他人が振り出した小切手を受け取り、銀行に持込んだ段階で預金勘定を増額する処理をしています。そのため、預金残高と帳簿残高(会計データの預金出納帳)が一致しくなくなります。この2つのケースの場合、当社の会計データを修正する必要はありません。

(3) 購買業務と販売業務の管理システム

購買管理システムとは、営業現場における発注・仕入(入荷)・在庫管理・支払などの労力を要する業務を効率的に進めるシステムのことで、販売管理システムとは、見積書の作成・商品の受注・出荷(納品・売上)・売上データの集計・請求書の発行・代金の入金などの一連の業務管理を意味します。両者を1つにまとめたシステムで管理する場合があります。

問題 8-3 日商 2 級

次の文章中の空欄にもっとも適当と思われる語句を語群から選んで、(1)～(6)の解答欄に記号で記入しなさい。

設問 1 発注した商品が納品された場合には、入荷した現品と納品書や (1) とを突き合わせて品違いや数量違いを確認するとともに、汚れや傷などもチェックする。これらの検収作業を完了したら納品済みとし、在庫と (2) のデータ入力を行う。

語群	ア	発注伝票	イ	請求書	ウ	領収書	エ	売上伝票
	オ	見積書	カ	支払明細書	キ	買掛金	ク	売掛金

設問 2 支払データを集計する場合、一般的には (3) から月次で請求書が送られてくるので、当社が入力している買掛金の残高と請求書の請求額を照合する。または、仕入先との取り決めによって、当社が検収報告書にもとづいた (4) を作成し、相手先に交付する場合がある。この場合、相手先が内容チェックし、押印のうえ返送してもらうことで自社側の照合作業を省略することができる。

語群	ア	発注伝票	イ	売上伝票	ウ	得意先	エ	受取明細書
	オ	受領書	カ	仕入先	キ	領収書	ク	支払明細書

設問 3 作成した見積書には、得意先の情報、商品の情報、納入期限、(5) などが記載されている。見積書にもとづいて、商品の注文を受けた場合には、(6) を作成して得意先に交付する。商品の引き渡しにあたっては、現品に(7) を添付し、さらに、売上のつど代金を請求する場合には請求書も添付する。

語群	ア	発注伝票	イ	売上伝票	ウ	納品書	エ	取消期限
	オ	注文請書	カ	領収書	キ	有効期限	ク	注文書

解答欄

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

Advice

買い手が売り手に対して、「これを買います」というのに対して、売り手が買い手に対して「では、これを売ります」といえば両者の間で売買契約が成立します。後日の行き違いを防ぐためにも注文書と注文請書の役割は大きいといえます。

(4) 給与計算業務と管理システム

給与計算業務と人事業務は、毎月の給与計算、賞与、年末調整、そして採用・昇給、退職などにもなう諸手続きから所得税や社会保険に関する法定事務までの一連の業務をいいます。具体的には、タイムカードや出勤簿から出勤日数・欠勤日数・残業時間・遅刻時間等の勤怠項目の管理・集計、そして基本給に加算する残業手当・休日手当の計算など、労力を要する業務になります。

問題 8-4

日商 2級

次の文章中の空欄にもっとも適当と思われる語句を語群から選んで、(1)～(7)の解答欄に記号で記入しなさい。

設問 1

給与の支給形態には、1時間あたりの給与の額(基本時給)を定め、労働時間を乗じて基本給を計算する(1)や1日あたりの給与の額(基本日額)を定め、労働日数を乗じて基本給を計算して遅刻があった場合は減額する(2)、1ヵ月あたりの給与の額(基本月額)を定めて欠勤や遅刻があった場合でも減額しない完全月給制などがある。

語群	ア	日給制	イ	固定給+歩合制	ウ	時給制	エ	出来高払い制
	オ	歩合給制	カ	日給+歩合制	キ	年俸制	ク	固定給制

設問 2

(3)は、病気やけがをした場合に治療費や診療費負担を軽減するための保険であり、働く人々の老後の生活を保障することを目的とする保険が(4)である。

労働保険は、労働者災害補償保険(労災保険)と(5)にわかれる。労災保険料は事業主が全額負担し、(5)料は負担割合に応じて事業主と従業員が負担する。

語群	ア	健康保険	イ	厚生年金保険	ウ	生命保険	エ	介護保険
	オ	雇用保険	カ	社会保険	キ	損害保険	ク	傷害保険

設問 3

社会保険は、事業主と被保険者(従業員)が保険料を約半分ずつ負担する。被保険者(従業員)の負担分は、毎月の給料および賞与から天引きされ、納付するまで一時(6)で処理される。一方、事業主の負担分は、(7)で処理される。

語群	ア	預り金勘定	イ	保険料勘定	ウ	法定福利費勘定	エ	厚生費勘定
----	---	-------	---	-------	---	---------	---	-------

解答欄

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

